

# 編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

※受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
102-61	高等学校	国語	現代の国語	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教 科 書 名		
104・数研	現国・710	新編 現代の国語		

<b>1. 編修の基本方針</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識・技能を培い、確かな国語力を育成する。</li> <li>● 言葉の働きについて理解を深めるとともに、言葉を通して社会と関わる態度を養う。</li> <li>● 論理的に考え、適切に伝え合うための、確かな思考力・判断力・表現力を培う。</li> <li>● 現代社会の諸問題に対する幅広い関心と、言語文化の担い手としての自覚を育む。</li> </ul>

<b>2. 対照表</b>		
図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
<b>言葉を学ぶ</b>		
書き手の意図をつかむ	現代社会で求められる責任について考え、社会の発展に寄与する態度を養えるようにした。(第2号・第3号)	p. 15～p. 28
文章の展開を把握する	時間についての考え方を述べた文章を用いて幅広い知識と教養を養うとともに、抽象的な思考を通して真理を追究する態度を育めるようにした。(第1号)  人間と地球環境の関係について、自身の生活と具体的に関連づけて考察できるようにした。(第4号)	p. 29～p. 48
対比を読み取る	対比構造について学習できる二つの文章を通して、言語運用能力を高めるための知識を身につけられるようにした。(第1号)  自国と他国の文化比較を通して、自国の文化の特徴について理解を深め、国際社会の平和と発展のために必要なことについて考察できるようにした。(第5号)  人と自然の共生における重要な問題点について、自身の生活と具体的に関連づけて考察できるようにした。(第4号)	p. 49～p. 66
コミュニケーションと言葉	コミュニケーションについて異なる視点から述べられた二つの文章の読解を通して、幅広い知識を身につけるとともに、自己と社会との関わり方について考察できるようにした。(第1号・第3号)	p. 67～p. 82
日常の中の文章	実社会にある素材を用いて、相手や目的に応じた文章を書いたり、資料を的確に分析したりする活	p. 83～p. 92

	動を通して、主体的に社会に参画する態度を養えるようにした。(第3号)	
言葉の働きをとらえる	人間の思考や認識を支えるという言葉の働きについて理解し、言葉を用いて主体的に思考する力を培うことができるようにした。(第1号)  日本語の特徴や自国と他国の文化比較を通して、自国の文化の特徴について理解を深めることができるようにした。(第5号)	p. 93～p. 110
書き手の考えを比較する	科学についての考え方を述べた二つの文章を用いて幅広い知識と教養を養うとともに、抽象的な思考を通して真理を追究する態度を育めるようにした。(第1号)	p. 111～p. 126
根拠を読み取る	多角的に物事をとらえたり、身近な物事にも疑問を持ったりすることを通して、幅広い知識と教養を身につけ、柔軟な発想で真理を求める態度の重要性を認識できるようにした。(第1号)	p. 127～p. 148
社会の中の文章	実社会にある素材を用いて、相手や目的に応じた文章を書いたり、資料を的確に分析したりする活動を通して、主体的に社会に参画する態度を養えるようにした。(第3号)  SDGsに関する活動を通して、自国と他国を尊重し、国際社会の平和と発展に貢献することの重要性について考えを深められるようにした。(第5号)	p. 149～p. 166
<b>言葉を使う</b>		
話し言葉の技術	自身の思いを他者にわかるように伝えたり、他者と共感し合ったりすることの大切さを、活動を通じて理解できるようにした。(第3号)  グループ活動によって個々の責任をはたす大切さを学ぶことで、主体性と他者を尊重する態度を身につけ、社会の形成に参画し、その発展に寄与できる力を養えるようにした。(第3号)	p. 168～p. 181
書き言葉の技術	調査結果および自身の考えをまとめる活動を通して、知識と教養を身につけ、真理を求める態度を養えるようにした。(第1号)  自身の考えを深めたり、適切に表現したりするための基本的な方法を身につけ、さまざまな事柄に対して主体的に取り組む態度を培うことができるようにした。(第2号)	p. 182～p. 194
<b>資料編・見返し</b>		
テーマ別キーワード	実社会の生活に即した言葉のつながりや使い方を知ることで、言語を用いて自己の思考を深め、他者や自己を取り巻く文化・社会への理解と敬愛の精神を育めるようにした。(第1号・第3号)	p. 196～p. 215

見返し	実社会につながる書籍などについて知ること、社会生活に必要な知識や教養を身につけ、個人の能力を高められるようにした。(第1号・第2号)	前見返し 後見返し
<b>3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色</b>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校教育法第51条2号「一般的な教養を高め、専門的な知識、技術及び技能を習得させること」を踏まえ、教材の読解にとどまらず、語彙力を高めたり、基本的な言語技術を確認したり、読書活動につなげたりできるような「解説」(コラム)を随所に掲載した。</li> <li>● 学校教育法第51条第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、各教材末には、現代社会のさまざまな話題や問題を多角的な視点から考察できる設問や言語活動例を多数用意した。</li> </ul>		

# 編修趣意書

(学習指導要領との対照表, 配当授業時数表)

※受理番号	学校	教科	種目	学年
102-61	高等学校	国語	現代の国語	
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
104・数研	現国・710	新編 現代の国語		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

### (1) 全体

- ① 「言葉を学ぶ」「言葉を使う」「資料編」の3編で構成した。「言葉を学ぶ」「言葉を使う」編においては、さまざまなテーマの論理的文章・実用的文章を掲載した。
- ② 「チェックポイント」コーナーを設けて、「話す・聞く」「書く」ことに関する具体的な場面を設定し、身につけておきたい言語知識・技能を解説した。


日本は梅雨の時期もあり、雨がよく降ることから、水資源に恵まれた国と一般的に考えられていると思います。実際に国土交通省が発表した最近の調査によると、日本の年間平均降水量は、世界平均の約一・六倍もあるそうです。しかし、一人あたりで計算すると世界平均の約四分の一になるそうです。水道の蛇口をひねればいつでも水が使える、飲料水に困ることもないため、普段はあまり感じることはありませんが、私たちが使える水には限りがあるということを忘れないようにしたいと思います。

次は、日本の水資源についての発表の一部である。発表の要点をメモしながら聞いてみよう。

チェックポイント  
2

「何を伝えたくて話しているか。」  
～内容を簡潔にメモする～

メモをとりながら聞く



- ③ 思考や表現をささえる語彙力を身につけられるよう、語句の特徴や使い方について解説した「ズームアップ」コーナーを設けた。

### ズームアップ

#### 対義語

■対義語とは？  
ある基準をもとにして、意味が反対の関係や対の関係にある二つの語を「対義語」という。例えば、「上る」と「下る」はある地点から動く方向において反対の関係を表す対義語である。

■対義語の使い方  
対義語は、その意味によって組み合わせが複数になることもある。例えば「甘い」について考えると、「甘い食べ物が好き」という場合、その反対は「辛い(または苦い)食べ物が好き」になる。では、「彼は孫に甘い」という場合、その反対に「辛い(苦い)」をあてはめるとどうだろうか。不自然な日本語になってしまうのがわかるだろう。この場合は「彼は孫に厳しい」というのが適当である。



### ズームアップ

#### 類義語

■類義語とは？  
互いに似た意味を持つ語を「類義語」という。例えば、「言う」と「話す」は、どちらも「言葉で伝える」という意味を持つ類義語である。

■類義語の使い方  
類義語どうしは意味が似ているため、互いに置き換えて使うことができる。ただし、微妙に意味が異なるなど、必ずしも同じ場面で使えるわけではないので注意が必要である。

例えば、「積む」と「重ねる」は、ともに「物の上に物をのせる」という意味を持つ。「石を積む」と「石を重ねる」は同じ意味で通じるだろうが、「トラックに石を積む」と「トラックに石を重ねる」は同じ意味



④ 本編教材との比較読解ができる文章を掲載した「探究の扉」コーナーを設けることで、資料を比較したり関連づけたりする力を養えるようにした。

探究の扉  
比較読解

### 科学的とはどういう意味か

森 博嗣

科学とは、民営的になんか定義をするシヤ、つまり、他人と共有できることとなる。ことごとぎ、教壇に立ってコニテリョが感じることなる。観察されたものを分析する過程である。この意味で、科学とは、観察されたものから何らかの理論を構築する行為である。科学的とは、観察されたものから何らかの理論を構築する行為である。科学的とは、観察されたものから何らかの理論を構築する行為である。

科学とは、民営的になんか定義をするシヤ、つまり、他人と共有できることとなる。ことごとぎ、教壇に立ってコニテリョが感じることなる。観察されたものを分析する過程である。この意味で、科学とは、観察されたものから何らかの理論を構築する行為である。

科学的とは、観察されたものから何らかの理論を構築する行為である。

探究の扉  
「比べ読」

### 非言語コミュニケーション

末田清子

人間が他の人間に伝えるメッセージには、言葉を使って伝える言語メッセージと、言葉によらない非言語メッセージがある。ここでは、次の文章と図を眺め、非言語メッセージの特徴やその効果について考えてみよう。

非言語メッセージは、「図1」のように音声的なものと、音声的ではないものに区別することができる。音声的なものには声の質量や、高低、速度、抑揚などが含まれる。一方、非音声的なものとしては、コミュニケーションの当事者そのものに關わるもの、コミュニケーションの当事者が置かれている物理的環境に關わるものがある。前者には、外見的特徴や、身体接触、身体動作や、においや香りなどが含まれる。

これに対して、後者には、空間使用や、時間の概念や、時間に対する志向が含まれる。

非言語コミュニケーションは、コミュニケーションのプロセスの中でどのような役割を果たすのであろうか。以下の六つの役割とその例を見てみよう。

まず、最初に挙げられるのは、言語メッセージを代用するという役割である。例えば、服装や容姿を見て、相手の年齢や、性別や職業などが判断できることが多い。

⑤ 各教材の見出し付近に掲載した二次元コードを通じて、さまざまな角度から本編教材の理解を深めることができる「学習用コンテンツ」を多数用意した。

(2) 言葉を学ぶ

- 現代の社会生活に関するテーマについて述べた文章、図表や資料を用いた文章など、さまざまな形式の文章に触れられるよう配慮した。

### 文章の構成を工夫して提案する 〈企画書〉

企画書は、自分の提案を相手に納得してもらうために書く文章である。提案の内容を具体的に説明するだけではなく、提案の背景やその効果も説明することで説得力が増し、提案を受け入れてもらいやすくなる。

左頁の会話文は、下の説明にあるように、M高校の生徒会メンバーによる、体育祭に向けての企画検討会議の一部である。会話文中の「資料1」「資料2」は、それぞれ「五頁のもの」を指す。

ここでは、会議の内容や、資料をもとにして、「体育祭マスコット企画」について、Dさんの立場で「企画書」を作ってみよう。なお、企画書は体育祭実行委員と生徒会のメンバーに配布されることとする。



互いに引きつけあう力を「万有引力」といいます。このとき、自分の質量が大きいほど相手に及ぼす力は強くなります。地球という大きな星が生み出す引力を、重力といいます。水が高さから低きに流れるのは当たり前のことなのですが、実は地球の重力があるからこそ、水は川となり、山から平地、そして海へとたどり着くのです。

さらに、北極や南極近くの海にできる海水も、水の循環を生み出す、とても重要な働きをしています。海の表面から熱が奪われることで氷ができますが、氷になると海水中の塩分が絞られ、重くなるため、あたりの海水は、より濃度の高い、重い水になります。また、水で冷えた海水は、まわりの海



・読解力と表現力を効果的に身につけられるよう、「読む」ことと、「話す・聞く」「書く」ことの学習内容を関連づけて単元を構成した。

# ものづくり

村山 明

人類の進歩の中で、気持ちよく過ごすことを追求めて利便性が向上した一方、自然は荒廃しつつある。<sup>\*</sup>太古は裸で山中に暮らしていた人が、コンクリートに囲われた住まいで暮らすうちに、自然を敬い愛する心がなくなってきたように思う。例えばエアコンで住居を冷やせば冷やすほど、排出された熱で外は暑くなる。温暖化などの環境破壊は、人が便利と快適だけを求めた積み重ねの結果だろう。

しかし、一度手に入れた快適さを手放すのは難しく、人はより楽をして心地よく過ごす方向へと向かう。物質や暮らしの快適さを求め過ぎると、自分の首を絞めることになるだろう。同時に、快適であれば多少の自然破壊は仕方ないと考えるのは、自己中心的で他を思いやる心の欠落をも意味する。

古来、日本人は国土も資源も限られた中で、目指す国づくりに大変な努力をし

## チェックポイント 1 わかりやすく話す

「大切なものを紹介しよう」と相手に伝わるように話す



《ものづくり》では、ものの使い手（買い手）と作り手の態度について述べられていた。ここでは、自分が幼い頃から使い続けているものについて、クラスで紹介してみよう。

### 1 話題について考える

「自分が幼い頃から使い続けているもの」としてどのようなものがあるか書き出し、紹介するための原稿を作ろう。

それがどのようなものか（ものについての説明）、

### (3) 言葉を使う

・汎用的な言語能力を身につけるための基本知識を解説し、適宜「言葉を学ぶ」の内容と関連をもたせ、相互に効果的な学習ができるようにした。

## 文章トレーニング2

### 要約する

#### 目標

- ▼文章の要点を的確にとらえる。
- ▼文章の構造を意識してまとめる。

### 1 要約とは

要約とは、聞き取った情報や読んだ文章の内容を短くまとめ示すことである。そのため、要約では、情報を理解すること、その要点を表現することの両方が要求される。ここでは《水の東西》(5頁) 全文の内容を百字以内で要約してみよう。

### 2 要約の方法

要約の方法を次の手順で確認してみよう。

- 1 本文全体を読み、筆者の主張や結論を確認する
- 2 形式段落を一文で要約する

#### 文章トレーニング1 意見文を書く

▼具体的で説得力のある文章で意見を述べる。  
▼引用・根拠のしかりについて理解する。

#### 1 意見文とは

意見文とは、あるテーマについて自分の意見を述べる文章である。テーマではなく、与えられた課題文について意見を述べる場合もある。

読む人に自分の考えを納得してもらうためには、ただ意見を思いつくままだけではなく、反論も予想しながら、自分の意見の根拠となるような論やデータを示したり、文章の構成を工夫したりする必要がある。

#### 2 新聞採録を想定して意見文を書く

新聞には読者の意見を掲載する投稿コーナーが設けられていることが多い。まず、そのようなコーナーに実際に掲載された投稿記事を持ち寄り、内容や表現の工夫について話し合ってみよう。比較しやすいよう、持ち寄った記事は一通り、よく読んでみる。



(4) 資料編

・実社会の生活に即した言葉の意味や使い方を知ること、言語を用いて自己の思考を深め、他者と言葉で関わり合う力を身につけられるようにした。

2. 対照表

単元	教材	知識及び技能			思考力, 判断力, 表現力等						該当箇所 [頁]	配当時間		
		(1)	(2)	(3)	A 話すこと・聞くこと		B 書くこと		C 読むこと			話す・聞く	書く	読む
					(1)	(2)	(1)	(2)	(1)	(2)				
書き手の意図をつかむ	目指す世界の地図を作る	ウ・エ	イ						ア	ア	16			1
	ものづくり	ウ・エ	イ						ア		22			1
	【チェックポイント1】わかりやすく話す	イ			ア・イ	ア					26	1		
	【コラム】評論の読み方			ア							27			
文章の展開を把握する	【ズームアップ】熟語	エ									28			
	時間とは何か	ウ・エ	イ					ア		30			1	
	地球を旅する水の話	ウ・エ	イ					ア	イ	38			1	
	【チェックポイント2】メモをとりながら聞く	イ			エ	ア				47	1			
対比を読み取る	【ズームアップ】類義語	エ								48				
	水の東西	ウ・エ						ア		50			1	
	里山物語	ウ・エ						ア		56			1	
	【コラム】指示語	カ								63				
コミュニケーションと言葉	【コラム】「対比」に注意	オ								64				
	【ズームアップ】対義語	エ								66				
	世間話はなぜするか	ウ・エ						ア・イ	ア	68			1	
	【探究の扉】非言語コミュニケーション	ウ・エ	イ		ア・イ・ウ	ウ		イ		76	2			
日常の中の文章	【チェックポイント3】適切な書式で通知する	エ・オ					イ・ウ	イ		80		4		
	写真を文章で説明する	イ					イ・ウ	イ		84		4		
	広告コピーを書く	イ・エ					イ・ウ	イ		86		4		
	表現の工夫を読み取る(新聞)	オ					イ	イ		89		4		
言葉の働きをとらえる	【コラム】実用文の読み方	エ	エ							90				
	【ズームアップ】慣用句	エ								92				
	語感トレーニング	ウ・エ						ア		94			1	
	コインは円形か	ア・ウ・エ						ア・イ	ア	101			1	
書き手の考えを比較する	【コラム】接続語	オ	ア							109				
	【ズームアップ】外来語	エ								110				
	科学と非科学	ウ・エ	ア					ア・イ	ア	112			1	
	【探究の扉】科学的とはどういう意味か	ウ・エ	ア					イ	ア	118			1	
根拠を読み取る	【チェックポイント4】必要な情報を整理して書く	オ					ア・イ・ウ	イ		122		3		
	【ズームアップ】同音異義語・同訓異字	エ								126				
	「差」という情報	ウ・エ	ア					ア	ア	128			1	
	【チェックポイント5】目的に応じて情報を聞き取る	ウ・エ	ア					ア	ア	136			1	
社会の中の文章	【ズームアップ】ことわざ・故事成語	イ			エ					146	1			
	文章の構成を工夫して提案する(企画書)	エ		ア	エ	イ・エ	イ			148				
	課題を発見し解決策を発表する(SDGs解説文)	ウ・エ			ア・イ・ウ	エ				150	1	3		
	【コラム】グラフの読み方	ウ・エ					ア・イ・エ	ウ		155	3			
話し言葉の技術	【ズームアップ】ことわざ・故事成語	ウ・エ					ア・イ・エ	ウ		160		4		
	【チェックポイント6】根拠の妥当性を説明する	ウ・エ					イ・ウ			162				
	【ズームアップ】ことわざ・故事成語	イ			ア・イ・エ	ア				164		3		
	【適切に話す・聞く】スピーチ	イ			ア・イ・エ	ア				168	3			
書き言葉の技術	【話し合いの方法】ディベート・討議	エ・オ			イ・エ・オ	イ				170	6			
	【発表の方法】プレゼンテーション	エ・オ			ウ・エ・オ	ウ				177	3			
	【文章トレーニング1】文章構造を理解する	オ								182				
	【文章トレーニング2】要約する	オ	ア				エ	ア		184		1	1	
資料編	【文章トレーニング3】比較する	ウ					エ			188		1		
	【文章トレーニング4】意見文を書く	オ	オ				エ	ア		190		4		
	テーマ別キーワード	ア・エ								196				
配当時間合計		A 話すこと・聞くこと										21		
		B 書くこと											35	
		C 読むこと												14
		合計												70